

2023

7.31 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_8uMu2i5yTkGHRGT_8osmLA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

社会的課題への 統計数理的観点からの貢献可能性

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

統計的推測

貧困地図

廣瀬 雅代 助教

九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所



大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程単位取得退学後、博士学位（工学）を取得しました。統計数理研究所などを経て、2019年度に九州大学マス・フォア・インダストリ研究所（九州大学数理・データサイエンス教育研究センター兼任）の特定プロジェクト助教に着任。2022年度に九州大学マス・フォア・インダストリ研究所専任助教に着任しました。

SENTAN Q(ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修；

<https://sentan-q.kyushu-u.ac.jp/>)の遂行のため、最近までアメリカにて国際共同研究を行っていました。専門は、統計科学・統計数理です。より具体的には、小区分ごとの統計的推測法の研究を行っており、将来は、証拠に基づく政策立案(EBPM: Evidence Based Policy Making)に向けた、統計学的視点からの社会貢献を目指しています。

近年わが国でも貧困に関連した社会問題が取り上げられてきています。そのような状況をより細かく把握するため、信頼性の高い地域別のエビデンス資料作成は非常に重要になると考えられます。ところで、こうした課題解決に数理的観点からの貢献可能性はないといってしまうのでしょうか。講演者は、そのような社会的問題においても数理的研究の威力を発揮できると考えています。本講演では、社会的課題として貧困問題に焦点をあて、統計数理的観点からの地域別貧困率推定への貢献可能性をお伝えしたいと思います。